

1 はじめに

この度、吉成先生が論文を作成するにあたり平成3年時に関わった生徒からの話を集めているとのことで、私なりに当時を思い返して、現在の私から見た思いや意見等を以下で述べていきたいと思ひます。

2 中学時の思い出

(1) 登校

私の中学生時代は、学校に登校する目的として、部活動でどの様に上達できるかであり、その日の練習で取り組むことを常に頭の中で考えていて、授業が終わり放課後になると道場に行き、体がたくたになるまで柔道に打ち込んでいました。

学問に興味がなかったわけではありませんが、幼いころロサンゼルスオリンピック無差別級で金メダルを獲得した山下泰裕選手が表彰台で涙を流して勝利の思いを表現している姿を見て柔道に魅力を感じ、私もオリンピックに出場し金メダルが獲りたいという夢を持ちました。

夢を実現するためには先ず、目標がなければ成りません。県中学総体で優勝する事を目標に日々練習に取り組んでいました。

(2) 出会い

2年生に進学し衝撃的な出会いがありました。「俺の目を見ろ」2年生担任の〇〇先生です。

日本人はなかなか目を見て話をする習慣がありませんが、突然のことで教室の雰囲気が一瞬で変わったことを思い出します。

「人間の輝きは目を見ればわかる。何かに向かって邁進している人は目が輝いている。その逆に死んだサバの目をしている人は、目標もなく自信もなく、ただ毎日を呆然と暮らしている。」サバには申し訳ないが、この様に出会って最初のあいさつで人を引き付ける魅力を感じました。自己紹介を聞いていると、私と同じ柔道家であり親近感を感じました。

また、自信たっぷりに生徒の前で自分の生い立ちから学生時代のことなど自身の思いを語ってくれました。

小学校時代から数々の先生と出会ってきていましたが、自身の生い立ちや生きてきた経験などを語ってくれた先生は初めてのことで、自分の失敗談や、あの時はこのように感じたなど自分の思いをさらけだす。それも自信たっぷりにさらけだす。人はなかなか自分のことを話したくないものです。特に人を育てる、人を教える立場にあ

る人は、立場上で優れていると思われたい気持ちがあるように思ひます。そのために生徒からは偉そうにと思われてしまう先生が多いのではないのでしょうか。恥ずかしげもなく「俺の目を見ろ」と、私達と一緒に学ぼうと言ってくれた〇〇先生との出会いでした。

(3) 道徳教育

小学校から道徳教育は受けてきましたが、内容についてはあまり覚えていません。中学校でも色々な教材を使った授業があったと思ひますが、唯一覚えているのが「ナイン」という教材です。また、県同和教育研究授業でバスに乗り、富田中学校まで行き大勢の先生方の前で授業をしたこと。

差別のない社会を作ろう。

小学校のころから何気なく聞く言葉です。〇〇先生と同和問題についての授業で多くの同級生が、自主的に挙手をして自分の思いを語り合いました。

生まれた場所によって差別を受ける人の気持ちは差別を受けた人にしかわからない。

差別はなくなる。

差別はなくなるらない。

私も差別を受けるのか不安です。

同級生の中に差別を受ける可能性がある人がこんなにも沢山いるのかと思う一方で、自分は差別をしないで生きていこうと決めた自分がいました。

人の前で自分の思いを語るのには勇気がある事でした。毎時間、毎時間、今日は発表しよう決めて出席をするが、なかなか手をあげる勇気が出ず時間だけが過ぎていく。手をあげようとすると胸がドキドキして熱くなる。他人から変に思われぬか不安だから手をあげることができない。仲間外れにされたくないという思いが、周りの人がどのように思っているのかを確かめたくなる。自分は発表をしなくても、発表した仲間と同じ思いであれば安心できホッとする。私は決して多く発表した生徒ではありませんでした。発表を沢山している仲間は大体にして同じ仲間だったように思ひます。勇気を振り絞り初めて発表する仲間がいると教室の全員が聞き入った。涙を流しながら心の内を語った仲間は発表後には穏やかな表情をしていたことを覚えています。

3 高校進学

高校への進学を決意したのは、当時穴吹高校で指導をしていたF先生との出会いが大きかったです。あのロサンゼルスオリンピックレスリング90kg級代表。

「T、お前をオリンピック選手に育てる。」どこからそのような自信が出てくるのか分かりませんが、確かに自

信たっぷりにそうやって私をレスリングの道に進めてくれました。

どことなく「俺の目を見ろ」と言っていた〇〇先生と似ている魅力を感じました。

高校へは柔道で進学し夢を叶えようと思っていましたが、希望校へ進学ができず柔道をやめることになり、レスリングを始めることになり穴吹高校へ進むことになりました。

レスリングで絶対に全国大会に出場し優勝する、日本一になる、との思いで親元を離れて寮生活をするようになります。高校ではレスリング中心の生活が続きます。

朝練習の用意。各先輩のその日の朝に使う練習着を用意、朝練習。授業の間で朝練習の練習着を洗濯。授業後は午後練習の用意。各先輩のその日午後に使う練習着を用意。午後練習、午後練習の洗濯で1日が終わり寮に帰る。

先輩からは、色々な因縁を付けられ毎日のように理不尽な指導を受ける。中学時代に間違っていることは間違っているとと言える人間になろうと語り合ったが、高校に入学した直後に世の中の理不尽を感じた。同級生を励まし同級生から励まされ、気が付けば自分が先輩になっている。自分が先輩になったら理不尽な指導はやめよう。そう決めていたため、必要な指導以外はやめることを同級生に打ち明ける。

大体にしてやられたことを後輩にしていくのが悪しき伝統なところが体育会系にあり、同級生ももしかしたらそう思っていたのかもしれないが、思いを打ち明け賛同をえる。

3年生になりキャプテンを任せられると自らの思いで練習内容を決めることになります。高い志を持って進学し、ある程度の結果を出していた私は、より高い目標に向かってチームを引っ張ろうと厳しい練習を指揮するようになります。

しかし、中学校で学んだ「サイン」のようなチームにはなりません。一人だけとび抜けた目標ではチームの仲間からは賛同を得ることができず、厳しい練習よりも楽な練習をしたがる仲間が後輩からも慕われます。

この様になると、統制がとれずにチームとしては良い雰囲気ではなくなります。また、理不尽な指導を始め出す同級生や後輩があらわれ始めます。

4 大学進学

大学は全国から高い目標を持って進学をしてくるものだと思っている人が多いと思いますが、そうでない人がほとんどであった大学に進学をします。

拓殖大学です。

東日本リーグ戦で1部リーグ(Aグループ1位から8位、Bグループ9位から16位)16校の内で15位であった為に2部リーグとの入れ替え戦を戦ってなんとか1部リーグ、Bグループに残留していたチームです。

大学1年生の私が、チーム内の同階級選手の中で一番の実力であり主力選手でした。

この拓殖大学に進学を決めたのもN先生との出会いからです。N先生はF先生が和歌山県で教員をしていた時の教え子であり、私の兄弟子であり、先生でもあり、なかなか関係です。そのN先生は、「共にオリンピックを目指そう。」現役選手であった先生はソウル、バルセロナオリンピック代表で、アトランタオリンピックを目指し全国で注目されていた選手の1人でした。高校3年生の私に現役オリンピック選手が「共に目指そう。」そうやって拓殖大学に就職して、1年目のN先生が誘ってくれました。

大学では、全国からN先生に誘われ集まった同級生6人と出会います。先にも述べたように先輩のほとんどは目標を持たずに進学してきた選手でしたが、同級生は違いました。入学して1ヶ月後の東日本リーグ戦で、昨年15位だったチームが、1部リーグBグループで優勝しAグループとの入れ替え戦を制し、上位8チームのグループに昇格します。

俺たちの代で全国1位の大学にしよう。この様な思いで日々の練習に取り組んでいきます。

20歳を過ぎお酒を飲むようになると色々な話で盛り上がりました。その中で、同和問題について語ったこともあります。全国に同和問題について学んだことがない人がいることを初めて知りました。学んだが実感はなく、よくわからないと言う同級生もいました。

1年生の夏になると全国大学生選手権大会に出場します。入学後の初の全国大会です。大学に目標もなく何となく進学してきた先輩が、優勝した選手と五分五分の試合をします。私は3位でした。

秋になると全国大学選手権(グレコローマンスタイル)に出場します。夏の大会で優勝者と五分五分の試合で敗れた先輩も3位以内に入賞します。私も優勝しチームに貢献しました。

弱小チームであり目標もなかったチームが短期間で変わっていく姿を敏感に肌で感じました。先輩方の目は輝きを放ち厳しい練習もやりがいがあり、日々の練習が充実していました。

4年生になってキャプテンを任せられます。高校3年生での失敗があったため一旦は断ります。私がキャプテン

になると厳しくしすぎて後輩がついてこなくなるのではないかと申し出ると、「厳しい練習についていけない後輩であれば、このチームにはいない。自分の思うようにやりなさい。」先生からの激励でした。

高校時代の経験を活かし、チームをまとめるのには、それぞれの力量を見極めることが必要だと思いました。私はミーティングでチームのメンバーに本心を語る事になりました。ダメな時はダメ、いい時は良い。チームが一丸となって大きな目標に向かって進んでいく力強さを感じるとともに女房役を務めてくれた副キャプテンに感謝の思いを伝えます。1人の力ではなく、同級生、後輩の協力があって強いチーム作りができました。

5 社会人となって

社会人1年目に大きな決断を行います。結婚です。23歳での決断でした。

レスリングでは、全日本選手権大会(12月開催)で2位、3位を行ったり来たりと、いまひとつ勝ちきれないでいた時期でした。

24歳で父親になります。

2000年シドニーオリンピックの年でした。レスリング協会は、全日本選手権大会2位だった私をオリンピックトライアル大会に起用し、1位の選手と交互にトライアル大会に出場させますが、あと少しの所でオリンピック出場権が取れずに悔しい思いをします。

2004年のアテネオリンピックを目指しますが、2000年の全日本選手権では、年下のライバルに敗れ、翌年の2001年も同じ選手に敗れ低迷期に入ります。

周りの声は、「Tはそのまま勝てずに終わる。」大学の恩師からも叱咤激励で、引退を考え、仕事へシフトチェンジも視野に入れ考えるようにと。

妻に苦しい思いを打ち明けると、簡単に、「引退したらいい。でも数年後に後輩が全日本などの大会に応援に来てください。と言われ応援に行き、後悔をしないのであればいいのではないかと、自分で決めることだけだね。」結構かるい感じでしたけど重い言葉でした。

2004年のアテネオリンピックに出場するためには2003年の秋にある世界選手権(オリンピック選考会)へ出場する事が必要であり、2002年全日本選手権大会で優勝する事は必要でした。

シドニーオリンピック後の世界選手権2大会(2001年、2002年)に出場できていなかった私が3大会目に出場できるかは、わかりません。下馬評は低かったと思います。

家族を持ちハングリーな気持ちがなくなったのでは、とも言われていた時期でした。

しかし、私には確信がありました。社会人となり国民体育大会(10月開催)に出場し、3連覇を達成していましたが、全日本選手権大会では3連敗、同じ相手との対戦です。

思い切って監督に意見具申をおこない、2002年の国民体育大会を辞退しました。

年間のリズムを変えることで、12月の全日本選手権大会にピークで挑戦ができるように修正し、2002年の全日本選手権大会で初優勝をしました。26歳の12月です。

遅咲きのレスリングナショナルチーム人生の始まりです。

アテネオリンピック最終選考会に向けた数日前に、4年前の予選が思い巡ってきて、資格を取得できないかも、と呟く私に、「まだ、飛行機にも乗って現地に入っていないのに、そんな弱気で勝てるものも勝てないわよ。」とあっさり私に言う妻が隣にいます。

お陰でアテネオリンピック最終選考会(ウズベキスタン開催)では、世界選手権2位のロシア代表選手に勝ち優勝できました。

引退を考えた時期も、アテネオリンピック最終予選時にも、あっさり、ずばりと人の気持ちも考えずに心を突き刺す言葉で励ます。

23歳の時にもう1人のコーチに出会っていたことに気付かされました。

2008年までレスリング人生を続けましたが、北京オリンピック最終予選(セルビア開催)であと1勝のところで敗れ引退をします。

6 終わりに

現在から過去を振り返ってみます。

現在は、家庭で妻と4人の子供の大黒柱として、職場では部下を抱えて仕事をする立場となり、レスリングではコーチとしての人生を歩むようになりましたが、こうした人生を歩んでいくうえで大きな糧となっているのは、中学校時代に同級生と心の中にある思いを語り合えた事であり、「俺の目を見ろ」と言った先生との出会いです。

その後数々の人と出会い、自分の思いを伝えられていくこと、人を思い優しく接していけるようにと心がけて生きていけているのも、あの時の授業で、「人の横に憂いがある。人の苦しみや悲しみがわかる人間が優しい人間」と教わり、本当の強さ、強い人間は優しい人間だと教わってから、度重なる岐路で自分を見つめて進む道を選んできました。

「峠」ですね。

この詩も、教材としてみんなで、この先の人生でどのように進むかなど語り合いました。

今年は、リオデジャネイロオリンピック最終予選の年であり、12月21日から12月23日までの全日本選手権大会で人生を掛けたドラマがありました。

勝った選手は今から世界予選へ向けて厳しい練習や重圧と戦っていき、負けた選手は、選手人生を見直す決断を強いられます。

どちらも経験した私にしかできないアドバイスをおこない、後輩をより素晴らしい人生へ導いていけるよう現在の役職を努めて行きたいと思います。

24年ぶりに当時を振り返る事ができ、体の芯から新たな力が湧いてくる機会を与えてくださりありがとうございました。

先生方がまいた種は全国の色々な場所で色々な花となり盛りの時期を迎えようとしています。

どうか数年後に盛りの時期を迎える希望の種が育つことを願い、当時を振り返り現在の私の思いとさせていただきます。

板野中学校全体学習 1～2年目

30代男性 HK メール

吉成先生

だいぶ前のことなので、記憶が定かではなく、あまり具体的な文章が書けませんでした。よければ、ご使用ください。

アンケートについて回答させていただきます。

「あの時、全体学習をどう感じていたのか」

全体学習をすることで、普段の会話ではすることがないだろう内容を聴いたり、それを発展させた議論になったりと充実した学習だったと思います。

「振り返ってみて、今どう思っているか」

いきなり全体学習をするのではなく、それまでの土台となる学習がきちりできていることにより、より効果があると感じました。みんなが前向きに検討することによって、より効果があると思えるようになり、仕事にも役立っていると思います。

年末のお忙しい時だとは思いますが、よろしく願い申し上げます。

末筆になりましたが、よいお年をお迎え下さい。